



WHAT'S NEW



発行 新渡戸文化学園
新渡戸文化短期大学

※ホームページに掲載しています。

客員教授 北岡尚信先生の特別講義を開催

5月27日、食物栄養専攻2年生対象の栄養士キャリアアップ講座では、本学客員教授北岡尚信先生に『日本の食を考える』をテーマに講演を実施しました。

北岡先生は長くフランス料理のシェフをされ、現在はフランス農事功労章受章者協会の副会長をされています。今、日本では、「日本食」をユネスコ世界無形文化遺産に登録する動きが本格化していますが、その活動の中心的な役割を担っておられるのが北岡先生です。

世界で存在感を増す日本食。日本人シェフの優れた資質と努力が認められつつあり、海外を魅了する日本食が世界遺産の仲間入りを果たすかどうかは、12月のユネスコの会合で決定されます。北岡先生だからこそうかがえるお話も多く受講する学生は真剣そのものでした。



みんなであんずジャムを作りました



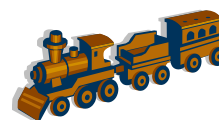
今年は梅雨の中休みが加わり、いつもより早い時期の6月12日(水)に校友会と有志により、あんずの収穫とジャム作りを行いました。男子学生が、木に登ってあんずを採り、女子学生がジャムを作り、学園の小学校に届けて、給食の時間に提供しました。あんずが嫌いな児童もいたようですが、「学校で採れたあんずだよ、一口食べてみようね」と勧めたところ、「おいしい」と言っていました、という嬉しいメッセージが届きました。きっと、短大生の小学生を想う気持ちが子ども達にも伝わったのでしょう。



おもちゃ美術館多田千尋館長の特別講義を開催

7月8日(水)児童生活専攻1年生の「基礎ゼミ」に外部講師として多田千尋館長をお招きし、乳児から高齢者までを対象としたおもちゃの幅広い可能性についてお話していただきました。「おもちゃは子どものもの」と思っていた学生たちは、乳幼児だけでなく、新たな視点として高齢者とおもちゃのかかわりについても学び、おもちゃへの関心と理解を深めました。

多田氏は明治大学卒業後、ロシア・プーシキン大学に留学。現在は東京おもちゃ美術館館長、日本グッド・トイ委員会・芸術教育研究所・高齢者アクティビティ開発センター等の代表を務める傍ら、全国各地で講演、早稲田大学で「福祉文化論」を教えるなど幅広く活躍されています。



臨床検査学科に平井徳幸教授が就任しました



7月1日付で平井徳幸先生が、本学臨床検査学科へ就任しました。平井先生は、東京理科大学を卒業し、東京慈恵会医科大学に就職し、慈恵医大の青戸病院(現葛飾医療センター)と第三病院で技師長として活躍されました。「本学の臨床検査学科は、臨床検査技師の教育機関として長い歴史があり、伝統的教育理念、精神が脈々と受け継がれています。伝統ある本学への就任に際し、緊張と不安で一杯ではありますが、20年間におよぶ本学との関わりと39年間の臨床検査技師としての経験を生かし臨床検査技師を目指す学生の教育に少しでもお役にできれば幸いです。専門としている臨床免疫学、医動物学については、慈恵医大付属病院で習得した技術と専門知識を基に最新技術の解説を取り入れ、学生が理解し易い内容の講義を考えています。」とコメントしています。